

スポーツ施設のストック適正化ガイドラインについて

スポーツ基本法第 12 条では、スポーツ施設の整備について、「国及び地方公共団体は、国民が身近にスポーツに親しむことができるようにするとともに、競技水準の向上を図ることができるよう、スポーツ施設（スポーツ設備を含む。）の整備、利用者の需要に応じたスポーツ施設の運用の改善、スポーツ施設への指導者等の配置その他の必要な施策を講ずるよう努めなければならない。」「スポーツ施設を整備するに当たっては、当該スポーツ施設の利用の実態等に応じて、安全の確保を図るとともに、障害者等の利便性の向上を図るよう努めるものとする。」と規定されている。

しかしながら、全国において、スポーツ施設は、老朽化と財政状況悪化の中で、安全な施設の提供が困難になりつつあるほか、少子高齢社会を迎え、地域ごとに求められるスポーツ施設の量や質が変化することが予想される。

本市をはじめとする地方公共団体が、スポーツ基本法に定められた理念を実現するためには、これらのスポーツ施設に関する課題に計画的に対応する必要があることから、スポーツ庁では、公立社会教育施設に関し、個別施設計画の策定のための指針・手引として、「スポーツ施設のストック適正化ガイドライン」を定めた。

1 ガイドラインの基本的な考え方

(1) スポーツ施設の現況評価について（1 次評価）

地方公共団体が保有する個々のスポーツ施設について、安心・安全・快適な利用に必要となる施設の性能を把握するため、基礎情報を収集・整理し、その情報に基づき、個別施設の方角性及び整備手法を検討し、その評価結果をまとめる。

(2) スポーツ施設的环境評価について（2 次評価）

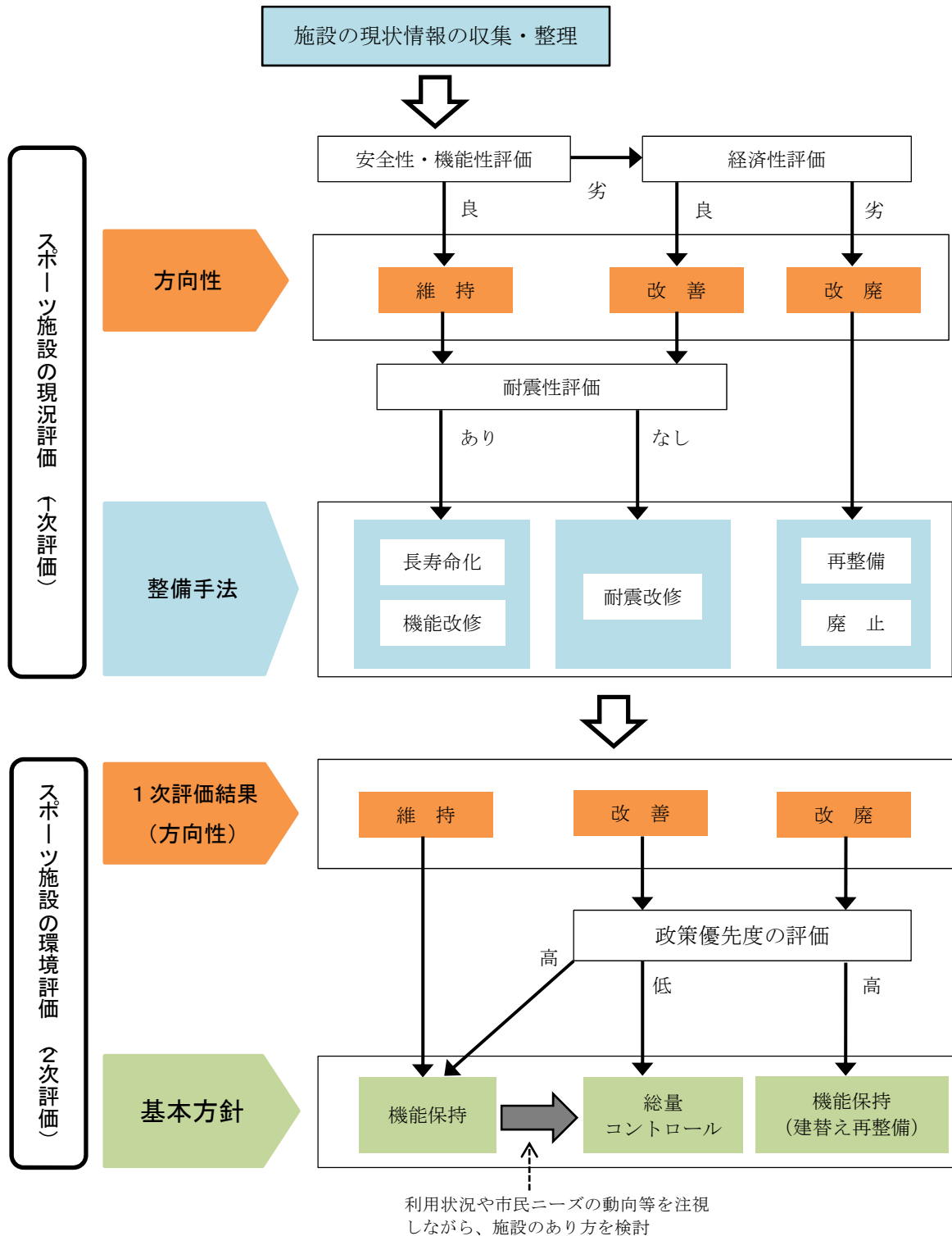
地方公共団体のスポーツ施設全体の方針に基づき、施設の現況評価（1 次評価）に加え、スポーツ施設の提供・利用等の観点から評価を行い、個別施設の基本方針を定める。

(3) 個別施設計画の検討について

スポーツ施設の基本方針に基づき、個別施設に適用可能な手法及び今後の行動計画を検討し、個別施設計画として取りまとめる。

2 スポーツ施設の評価について

(1) 評価フロー



(2) 評価項目及び評価基準

ア 現況評価（1次評価）

「安全性・機能性」「経済性」「耐震性」について評価する。

評価項目	対象
安全性・機能性	全てのスポーツ施設（15施設）
経済性	安全性・機能性評価において、「劣」と評価された施設
耐震性	安全性・機能性評価又は経済性評価で「良」と評価された施設 ※屋外施設で一部対象外施設あり

a 安全性・機能性評価

次の観点に基づき、安全性・機能性評価を行う。

評価の観点	内容
安全性	剥離やひび割れ等の損傷、屋根・外壁からの漏水の有無
機能性	内装の劣化状況、室内環境（空調、衛生、光）、付帯設備の劣化状況
法令適合性	建築基準法、消防法、電気事業法等における定期点検、定期報告実施の有無
安全対策	AED設置の有無、落下防止対策、安全管理マニュアルの整備及び徹底、安全教育の実施状況
屋外施設の状況	舗装、付帯設備の健全度、熱中症対策
残寿命	施設の残存年数

評価基準、評価の考え方は、次のとおり。

評価基準	評価 (評価点)
<ul style="list-style-type: none"> 全体的に健全である。 緊急の修繕が必要ないため、日常の維持保全で管理するもの。 	A (75点以上)
<ul style="list-style-type: none"> 全体的に健全だが、部分的な劣化が進行している。 緊急の修繕が必要ないが、維持保全での管理の中で、劣化部分について定期的な観察が必要なもの。 	B (74点～50点)
<ul style="list-style-type: none"> 全体的に劣化が進行している。 現時点では重大な事故にはつながらないが、利用し続けるためには部分的な補修、若しくは更新が必要なもの。 	C (50点～26点)
<ul style="list-style-type: none"> 全体的に顕著な劣化がある。 重大な事故につながる恐れがあり、施設の利用禁止あるいは、緊急な補修、若しくは更新が必要とされる。 	D (25点以下)

考え方	評価 (総合点)
<ul style="list-style-type: none"> 全体的に劣化・不具合等の事象が確認されない。 部分的な劣化・不具合等の事象が確認されるが、緊急性が低い（日常的な保守管理及び経過観察により対応）。 法定点検での是正報告がない、又は是正事項が既に改善されている（改善予定も含む。） スポーツ施設の安全対策がなされている。 	良 (75 点以上)
<ul style="list-style-type: none"> 全体的な劣化・不具合等又は著しい劣化・不具合等の事象が確認され、全面的な補修若しくは改修が必要である。 劣化・不具合等の事象により重大な事故、施設の利用制限、又は緊急に補修若しくは改善が必要である。 法定点検での是正報告があり、是正が長期間放置されている、又は重大な事故、施設の利用制限が想定される。 重大な事故の恐れがある安全に関する対策が実施されていない。 	劣 (75 点未満)

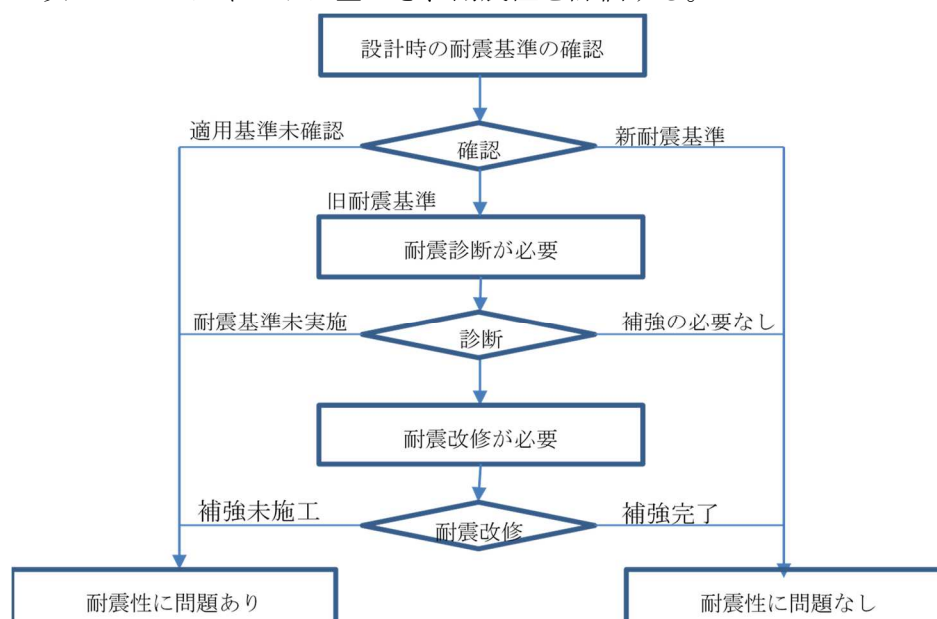
b 経済性評価

施設の更新に係る費用や光熱水費を含む維持管理費と使用料収入のバランス等を総合的に考慮し、評価する。

考え方	評価
<ul style="list-style-type: none"> 改善コスト、維持管理コストの発生が少ない。 収入が多く、今後も施設利用が見込める。 維持管理コストが多く、収入も少ない施設であるが、維持管理・収入の運用面での見直しの可能性がある。 	良
<ul style="list-style-type: none"> 改善コスト及び維持管理コストが多く、収入も少ない施設で、維持管理・収入の運用面での見直しの可能性がない。 相対的、若しくは目標値に対して、著しく状況が悪い。 	劣

c 耐震性評価

次のフローチャートに基づき、耐震性を評価する。



イ 環境評価（２次評価）

現況評価（１次評価）で「改善」「改廃」と評価された施設について、政策的な優先度を評価する。

a 政策優先度評価

次の観点や利用状況、市民ニーズ等に基づき、総合的に評価する。

考え方	評価
<ul style="list-style-type: none"> 施設利用が多い。 現在の施設利用者の満足度が高い。 運営や施設機能の向上により、大幅に利用状況が改善される見込みがある。 障害者スポーツが盛んに行われている。 圏域にそのスポーツの実施場所がなく、希少性が高い。 整備目的が明確で、目的に合致した利用が継続的に行われている。 地域防災計画において、災害拠点や避難施設としての指定されており、代替できる施設がない。 	高
<ul style="list-style-type: none"> 施設利用が少ない。 現在の施設利用者の満足度が低い。 特定の団体が利用し、実利用者が少ない。 周辺の人口動態等を踏まえると、運営や施設機能の向上を図っても利用状況の改善の見込みがない。 整備目的や施設内容と利用実態が整合していない。 学校開放等の既存施設の活用により、現在の利用を代替できる。 地域防災計画において、災害拠点や避難施設としての指定されていない。若しくは、指定されているが、近隣に代替できる施設がある。 	低

b 総量コントロール

現況評価（１次評価）において「維持」と評価された施設については、政策優先度を評価することなく「機能保持」となるが、財政状況等によって持続可能な施設維持が困難と判断される施設については、「総量コントロール」へ移行する場合がある。

